

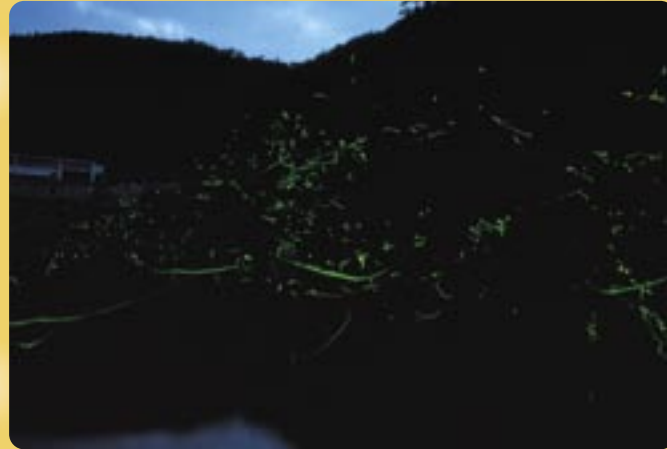
鱒淵川のゲンジボタル (国指定天然記念物)

鱒淵地区は昔からゲンジボタルが多く生息することで知られていました。しかし第二次世界大戦後、農業の影響などで幼虫のエサになるカワニナが減り、ゲンジボタルの発生が減少した時期があります。その後、農業環境の改善などで再び多くの生息が確認され、昭和54年に「東和町のゲンジボタル生息地」として国の天然記念物に指定されました。



ゲンジボタルが多く生息する鱒淵川

地域の人々は「源氏ホタル保存会」や「ホタル愛護少年団」などを結成し、環境保全などを進めながら保護活動を続けています。こうした人々の努力と、豊かな東和町の自然環境のもと、現在では毎年夏になると幻想的なホタルの大乱舞を見ることができます。



幻想的なホタルの大乱舞

東和町のホタル

東和町では鱒淵地区のほかにも、ゲンジボタルが集団で発生する地区が数多くあります。米谷、米川、錦織などでは、ホタルが集団発生する場所が複数知られています。これらの地区は鱒淵地区のような保護活動を行っていないので、発生する数は年によってさまざまです。



ゲンジボタルのほかに、ヘイケボタルやヒメボタルが生息しています。それぞれは大きさや光の強さ、飛び方も違いますから、慣れると見分けることが可能です。このようにホタルが飛び交うのは、豊かな自然環境の証と言えるでしょう。

ゲンジボタル

青森県から北限といわれ、温暖な地方に多く生息しています。大きさはオスが約14mm、メスが約20mm。オスは飛びながら約4秒に1回発光します。集団で同時に発光するのが特徴です。6月下旬から7月上旬に成虫を見ることができます。



ヒメボタル

青森から九州まで分布しています。大きさは約6mm。メスはオスより小さく、飛ぶことができません。森が生息地で、幼虫は陸上で小型の陸産貝類をエサにして成長します。7月から8月にかけて成虫を見ることができます。



ヘイケボタル

北海道から九州まで広く分布しています。大きさはオスが約9mm、メスが約11mm。ゲンジボタルに似ていますが、やや小型です。オスは飛びながら尾を引くように発光し、メスは葉の上などに止まってゆっくりと発光します。7月中旬から8月に出現します。

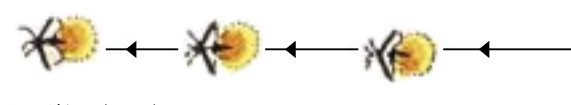


代表的なホタルの飛び方

●ゲンジボタル (14~20mm)



●ヘイケボタル (9~11mm)



●ヒメボタル (6mm)

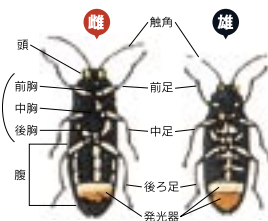


ホタルの一生

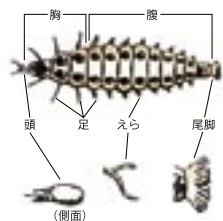
夏の風物詩として人々に親しまれているホタルの一生を紹介します。



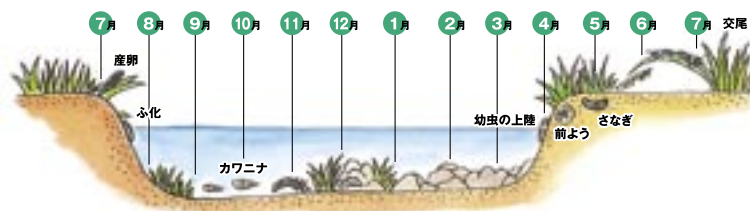
ゲンジボタルの体



ゲンジボタルの幼虫



ゲンジボタルの一生



歴史を識る

HISTORY

